



## 「雲」の楽しみ方

ギャヴィン・プレイター＝ピニー 著

桃井緑美子 訳

河出書房新社，2007年7月

345頁，2400円（本体価格）

ISBN 978-4-309-25211-7

「理解してこそ見えてくる」。雲を楽しむ豊富な知識が得られる本である。縦書き345頁，葉の紐が付いている。巻頭に雲のカラー写真8頁があり，本文は縦書きで白黒の写真と図，表を使ってさまざまな雲について書かれている。

「多くの人は雲になど見向きもしない」，「雲が不吉なことや悪いことの喩えにされればなしでいいはずがない」，「この情けない現状を放っておいてはならない」と英国に住む著者は思い立ち，雲を擁護するために2004年に The Cloud Appreciation Society という組織を設立したという。ウェブサイトがある。

目次は次の通りである。

### 第1部 低い空の雲

第1章 積雲／第2章 積乱雲／第3章 層雲／  
第4章 層積雲

### 第2部 中間の空の雲

第5章 高積雲／第6章 高層雲／第7章 乱層雲

### 第3部 高い空の雲

第8章 巻雲／第9章 巻積雲／第10章 巻層雲

### 第4部 忘れちゃいけない……

第11章 変わり種や成層圏などの雲／第12章 飛行機雲／第13章 モーニング・グローリー

第1章から第10章は十種雲形について，第11章から第13章は特に興味深い雲について，書かれている。

第1章から第10章の各章に「○○雲を見分けるには」という表があり，簡潔な文章と「現われる高さ」，「発生する地域」，「降水（地上に達するもの）」，「○○雲の種」，「○○雲の変遷」，「まぎらわしいのは…」という項目で雲の特徴がまとめられている。雲の観測に役立つ表である。

雲の解説とともに，気象の原理も幅広く書かれている。第1章では「サーマル」，「潜熱」，「温度逆転層」，

第2章では「不安定」，「対流圏界面」，「雷のメカニズム」，「スプライト」，第3章では「放射霧」，「移流霧」，第6章では「日の出と日没に雲が赤やオレンジに染まる理由」，第7章では「バルシェロン＝フィンダイセン過程」，「降水の種類」，第8章では「ノルウェー学派の温帯低気圧モデル」，第10章では「環天頂アークのしくみ」，「幻日のしくみ」，「22度ハロと46度ハロのしくみ」，第12章では「飛行機雲ができるしくみ」，「雲の種まき」，「飛行機雲の温暖化効果」などが解説されている。文献も巻末にまとめられている。

雲についての興味深い知識とエピソードも書かれている。例えば，第1章積雲では「雲は天と地のあいだにあって，聖なるものと俗なるものを分ける申し分のない宗教シンボルだった」ことを示すキリスト教絵画が示され，第2章積乱雲では1959年の夏にアメリカ空軍のランキン中佐が積乱雲の中心部を落下して生還したこと，などが紹介されている。第8章巻雲では「地震雲」の説明も取り上げられ，第13章モーニング・グローリーでは著者がオーストラリア北部のパークタウンを訪れてグライダーから撮影した貴重な写真がある。

また，随所に役立つ文章がある。

- ・(18頁) クラウドウォッチャーよ，警戒せよ！「朝の山（マウンテン）は，午後の噴水（ファウンテン）」なのだ。
- ・(146頁) 高い空に浮かぶ巻層雲は太陽の光をさえぎらないので地面に自分の影ができるが，高層雲のときはピーターパンのように影を奪われてしまうのだ。
- ・(186頁) クラウドウォッチャーは心得ておこう。遠くに見えるものほど，その動きはわかりにくいものなのだ。
- ・(205頁) 雲を楽しむことは，その進展を見ることだ。
- ・(262頁) 広がって厚みを増していく巻雲は今日か明日には雨になる前兆だが，ちぎれ雲は雨が降り出すまで3分切ったと知らせる警告だ。

空を見上げれば最も身近に見える雲の見方，楽しみ方が変わる本である。

（気象大学校 水野 量）